



---

法律専攻「演習」  
第2次募集

---



# 【目次】

1. 募集について
2. 募集に関する注意事項
3. 選考方法
4. ゼミ内容

➤ 一木 孝之 先生	11 頁	➤ 佐藤 彰一 先生	24 頁
➤ 稲垣 浩 先生	12 頁	➤ 佐藤 秀勝 先生	25 頁
➤ 上神 貴佳 先生	13 頁	➤ 鈴木 達次 先生	26 頁
➤ 大江 毅 先生	14 頁	➤ 関 哲夫 先生	27 頁
➤ 桶田 和子 先生	15 頁	➤ 高内 寿夫 先生	28 頁
➤ 小原 薫 先生	16 頁	➤ 高橋 信行 先生	29 頁
➤ 門広 乃里子 先生	17 頁	➤ 高山 奈美枝 先生	30 頁
➤ 川合 敏樹 先生	18 頁	➤ 羅 芝賢 先生	31 頁
➤ 川村 尚子 先生	19 頁	➤ 中川 孝博 先生	32 頁
➤ 坂本 一登 先生	20 頁	➤ 中曾根 玲子 先生	33 頁
➤ 佐古田 真紀子 先生	21 頁	➤ 長又 高夫 先生	34 頁
➤ 捧 剛 先生	22 頁	➤ 姫野 学郎 先生	35 頁
➤ 佐藤 俊輔 先生	23 頁	➤ 平地 秀哉 先生	36 頁

➤ 廣瀬 美佳 先生	37 頁
➤ 福岡 英明 先生	38 頁
➤ 宮内 靖彦 先生	39 頁
➤ 宮下 大志 先生	40 頁
➤ 本久 洋一 先生	41 頁
➤ 森川 隆 先生	42 頁
➤ 岡田 康夫 先生	43 頁
➤ 高橋 真人 先生	44 頁

[【目次に戻る】](#)

## 1. 募集について

### 【募集スケジュール】

第 1 次 募 集	
終了しました。	

第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2021年1月8日（金）12時～1月15日（金）12時50分
選 考 期 間	2021年1月18日（月）～1月23日（土）
合 否 発 表	2021年1月27日（水）20時予定 / K-SMAPYIIにて

※第3次募集の実施は第2次募集の応募状況によって決定します。実施する場合の日程等は、決定次第お知らせします。

### 【応募方法】

#### K-SMAPYII より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

[【目次に戻る】](#)

## 2. 募集に関する注意事項

- (ア) 応募期間に必ず応募してください。応募期間外のお応募は認められません。
- (イ) K-SMAPY II からの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ず K-SMAPY II から応募も行ってください。
- (ウ) ゼミごとに募集対象者が決められています。応募登録前に、募集要項で、自分が応募できるゼミはどれかを必ず確認してください。もしも募集対象外のゼミに応募してしまった場合には不合格となりますので、十分注意してください。
- (エ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、応募してください。
- (オ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (カ) 演習は、月～土の1限～6限の間で開講される予定です。具体的な開講曜時は、時間割の発表時に確認してください。
- (キ) 政治科目の演習は、政治専攻の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」との合併開講です。
- (ク) 合格後に、他のゼミへの変更はできません。
- (ケ) 各教員の連絡先に関する問い合わせにはお答えできません。
- (コ) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

### 【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～土曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

[【目次に戻る】](#)

### 3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
甘利 航司	募集なし					
一木 孝之	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 taka1@kokugakuin.ac.jp	民法財産法（民法総則・物権・債権総論・債権各論）科目を受講した際、「興味深いけれどわからない」と感じた論点について（（1）「ここまでわかったこと」〈400字〉、（2）「ここからわからないこと」〈400字〉）	(書式)A4 (字数)(1)400字 (2)400字計800字
			締切日時	1月20日(水)12:00		
		面接	1月21日(木)11:00～13:00	オンラインにて		
稲垣 浩	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp	①最近気になった行政・地方自治の話題 ②本ゼミへの志望動機	(書式)A4用紙(40字×36行) (字数)題目①500字以上800字以内 題目②300字程度
			締切日時	1月15日(金)12:50		
		面接	1月22日(金)13:00～	オンラインにて		
上神 貴佳	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	本演習を志望する理由	(書式)自由 (字数)1,000字
			締切日時	1月15日(金)12:50		
		面接	1月18日(月)17:00～	オンラインにて		
植村 勝慶	募集なし					

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
大江 毅	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	ゼミ志望理由について	(書式)自由 (字数)制限なし
			締切日時	1月15日(金)12:50		
桶田 和子	・現在ゼミ履修中の現3年生	選考免除(募集のみ)				
小原 薫	・現在ゼミ履修中の現3年生	選考免除(募集のみ)				
門広 乃里子	・現2年生	レポート	提出方法	メール送付 kadohiro@kokugakuin.ac.jp	現代家族が抱える問題について（簡単な自己紹介及び本ゼミ志望理由も記載してください。また、氏名、学籍番号のほか常用のメールアドレスを必ず記載してください。）	(書式)A4縦置き 横書きワープロ1頁 (字数)1,400字程度
			締切日時	1月15日(金)12:30		
荻田 真司	募集なし					
川合 敏樹	・川合より第2次募集に応募するよう指示を受けた現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 t-kawai@kokugakuin.ac.jp	(1)自己紹介 (2)このゼミの志望理由 (3)ゼミで考察したい問題とその理由 (4)どのようなゼミを創り、その中でどのような活動をしたいか (5)メールアドレス	(書式)自由 (字数)1,200字程度
			締切日時	1月15日(金)12:50		
川村 尚子	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 naokawamura1989@kokugakuin.ac.jp	①自己紹介 ②民法（財産法）で興味のあるテーマ ③ゼミでやりたいこと、どのように貢献できるか	(書式)Word形式、横書き、文字のポイント10.5 (字数)2,000字程度
			締切日時	1月16日(土)15:00		
		面接	1月22日(金)10:00～16:00		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
坂本 一登	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp	志望理由と現在関心をもっている政治的事柄	(書式)自由 (字数)1,000字程度
			締切日時	1月17日(日)17:00		
		面接	1月18日(月)16:00～17:00		オンラインにて	
佐古田 真紀子	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 sakota@kokugakuin.ac.jp	自己紹介、志望動機、ゼミに期待すること	(書式)Word (字数)1,000字
			締切日時	1月15日(金)20:00		
		面接	1月21日(木)12:05～14:30		オンラインにて	
捧 剛	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 sasage@kokugakuin.ac.jp	指定された英文の内容に対する自分の意見	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	1月17日(日)23:59		
		面接	1月19日(火)12:00～13:00		オンラインにて	
佐藤 俊輔	・現2年生	レポート	提出方法	メール送付 s.sato@kokugakuin.ac.jp	①本演習を志望する理由 ②現在国際関係で関心のある事柄とその理由について	(書式)Wordファイル・A4 (字数)1,000字以上
			締切日時	1月15日(金)12:50		
佐藤 彰一	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 satosho99@kokugakuin.ac.jp	私の考える社会的排除	(書式)ワード形式A4用紙 (字数)1,000字以上2,000字以内
			締切日時	1月19日(火)23:00		
佐藤 秀勝	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①志望理由、②法に関する最近の話題を1つ選び、議論の状況と自分の意見を述べる、③メールアドレス	(書式)特になし (字数)1,000～3,000字
			締切日時	1月15日(金)12:50		
		面接	1月19日(火)14:00～		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
芝崎 祐典	募集なし					
鈴木 達次	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法 締切日時	アンケート画面で回答 1月15日(金)12:50	自己紹介文（含む自己アピール）	(書式)指定なし (字数)1,200字程度
関 哲夫	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 tseki@kokugakuin.ac.jp	以下の(1)及び(2)について、指定した文字数で書いてください。 (1) 結果無価値論と行為無価値論の対立について説明した後、自分の見解を論述しなさい。 〔2,000～2,500字程度〕 <参考>関哲夫『講義刑法総論』（第2版・2018年）43～46頁 (2) 刑法ゼミで自分がやりたいこと、やってみたいことを書きなさい。 〔500字程度〕 〔応募者へ〕 レポート送付の際に、Zoom面接で使用するメール・アドレスを記入してください。	(書式)A4横書き パソコンで入力すること (総文字数)2,500～3,000字程度
			締切日時	1月21日(木)正午(12:00)		
		面接	1月22日(金)12:00～12:50		オンラインにて	
高内 寿夫	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 takauchi@kokugakuin.ac.jp	少年法または少年問題で関心のあるテーマについて	(書式)A4版用紙横書き (字数)300～500字
			締切日時	1月22日(金)正午12:00		
高橋 信行	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 n-takaha@kokugakuin.ac.jp	最近の行政法関連のニュースに興味をもったもの	(書式)A4 (字数)1,000字
			締切日時	1月19日(火)9:00		
		面接	1月19日(火)12:00～14:00		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
高山 奈美枝	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 namie.takayama@outlook.jp	志望理由	(書式)Wordファイルにて提出してください (字数)自由
			締切日時	1月23日(土)17:00		
羅 芝賢	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①一番好きな本を取り上げ、好きな理由を述べよ ②ゼミの志望理由	(書式)自由 (字数)800～1,000字
			締切日時	1月15日(金)12:50		
中川 孝博	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 t-nakagawa@kokugakuin.ac.jp	「志望動機」、および、「あなたはこのゼミにどのような貢献ができるか」	(字数)800～1,500字程度
			締切日時	1月15日(金)12:50		
		面接	1月22日(金)16:10～	オンラインにて		
中曽根 玲子	・指示のあった学生のみ	選考免除(募集のみ)				
長又 高夫	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 nagamata@kokugakuin.ac.jp	このゼミに参加したい理由、ならびに自己紹介文(近況を含め)	(書式)WordもしくはPDF (字数)200字程度
			締切日時	1月15日(金)12:50		

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
姫野 学郎	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①自己紹介（600字程度） ②志望動機（200字程度） ③民法について興味を持ったことは何か、それについて調べてみて自分なりの結論を出す（A4用紙1枚程度） ④レポート冒頭に以下を書くこと。 （ア）連絡先LINEのID（なければメールアドレス） （イ）1月19日（火）3時限～5時限、1月21（木）の2時限～5時限のうち、都合がよい時限（第3希望まで）。 どちらの日にも入れてください。	(書式)A4用紙にワープロ書き (字数)左記を参照のこと
			締切日時	1月15日(金)12:50		
		面接	1月19日(火)13時00分～17時40分 1月21日(木)10時30分～12時00分、13時00分～17時40分	オンラインにて		
平地 秀哉	・現2年生 ・現在ゼミ履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 hirachi@kokugakuin.ac.jp	本ゼミを志望する理由と、ゼミで勉強してみたい人権問題	(書式)A4版横書き 氏名・学籍番号・メールアドレスを明記すること (字数)1,200字以上
			締切日時	1月15日(金)12:50		
		面接	1月18日(月)15:00～	オンラインにて		
廣瀬 美佳	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 uh-kun@kokugakuin.ac.jp	自己紹介(関心のある問題等を中心に)&志望理由；送付するメールの件名に「2021年度廣瀬ゼミ志望」と明記すること	(書式)Word文書(拡張子は.docないし.docx)でA4縦・横書/余白は上下左右とも25mm/50字×48行 (字数)本文2,000字
			締切日時	1月19日(火)24:00		
		面接	1月21日(木)14:00～	オンラインにて		

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
福岡 英明	・現2年生 ・すべての 現3年生	レポート	提出方法	メール送付 hfukuoka@ kokugakuin.ac.jp	興味のあるテーマと その理由	(書式)特に指定 しない (字数)200字程度
			締切日時	1月15日(金)12:50		
藤嶋 亮	募集なし					
宮内 靖彦	・現2年生 ・すべての 現3年生	面接	提出方法	所定の「面接用紙」 に記入してもらいま す(手続は演習内容 参照) miyauchi@ kokugakuin.ac.jp	オンラインにて	
			締切日時	1月18日(月)11:00		
			面接日時	1月18日(月)13:30～ 15:30		
宮下 大志	・現2年生	レポート	提出方法	メール送付 miyashita@ kokugakuin.ac.jp	「これまでに最も興味を 持った講義」	(書式)自由 (字数)1,200字
		締切日時	1月15日(金)13:00			
		面接	1月23日(土)13:00		オンラインにて	
本久 洋一	・現2年生の み	レポート	提出方法	メール送付 motohisa@ kokugakuin.ac.jp	労働法・社会保障法ゼミ の志望理由	(書式)Wordない しOpenOffice文 書 A4 1枚から 2枚
		締切日時	1月15日(金)17:50			
		面接	1月21日(木)12:30～		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
森川 隆	・現在森川ゼミ（鈴木代講中）履修中の現3年生のみ	面接	面接日時	1月22日(金)14:00～(予定)	オンラインにて	
岡田 康夫	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 y_okada@mail.tohoku-gakuin.ac.jp	(1) あなたのメールアドレス（面接の詳細について連絡を取ります） (2) このゼミへの志望理由 (3) これまで授業で学んだ民法判例の中からもっとも興味を惹いたものを1つ選び、その内容と理由を説明してください。	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	1月15日(金)23:59		
		面接	1月19日(火)15:00～18:00		オンラインにて	
高橋 真人	・現2年生 ・現在齋藤隆夫先生のゼミを履修中の現3年生	レポート	提出方法	メール送付 takahashi0518@hotmail.com	自己紹介及び志望動機	(書式)PDF ファイルA4横書 (字数)800字～1,000字程度
			締切日時	1月15日(金)23:59		

## 4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	一木 孝之
演習テーマ	民法（財産法）判例読解
演習内容	<p><b>【内容】</b>  前期：3年生は、「これまでに下級審裁判例を読んだことがない、というゼミ生一人ひとりが、最高裁判例を読みこなせるようになるためのトレーニング」を重ねます。  4年生は、判例評釈執筆と、そのための報告を行います。</p> <p>後期：3年生は、毎回、民法財産法にかかわる最高裁判例を1件取り上げ、担当者のレジメを用いた報告を受けたのち、ゼミ生全員で、そこに含まれる論点を検討します。  4年生は、ゼミ論文執筆と、そのための報告を行います。</p> <p><b>【ゼミの雰囲気】</b>  「法学部に入ったのだから、判例が読めるようになりたい」「1年間、民法(財産法)をじっくり勉強してみたい」という人を歓迎します。  *コンパは、年2回程度です。合宿は、ゼミ生からの希望があれば、検討します。新型コロナウイルス蔓延状況次第ですが。</p> <p><b>【選考について】</b>  ○ゼミ見学を希望する場合には、下記アドレス宛にメールを送信してください。  ○ゼミ面接は、ZOOM ミーティングにて行います。連絡のため、下記アドレス宛にメールを送信してください。</p> <p><b>【問い合わせ】</b>  メール宛先：<a href="mailto:taka1@kokugakuin.ac.jp">taka1@kokugakuin.ac.jp</a>  *PCアドレスからのメールを受信可能なアカウントから送信すること。  *送信時には、件名を付したうえ、署名（学籍番号・氏名）を忘れないこと。</p>
教科書	
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治の動態分析
演習内容	<p>このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2020年度は、公立図書館、生活保護、空き家問題、コンテンツツーリズム、災害対策など、身近な地方自治に関する文献を読んできました。また、現役公務員のゲストスピーカーによる地籍調査についての報告とディスカッションのほか、都内・都内近郊での学生による現地調査など、コロナ禍の中、可能な範囲で「現場」での学びも大切にしています。</p> <p>2021年度も、2020年度と同様、前期は全員で行政・地方自治に関する図書（主に、『ガバナンス』などの地方自治関係雑誌掲載の論文、地方自治関係のテキストなど）を読み、報告者による発表、ゼミ生全員にコメントペーパー（A4 1枚程度）の提出、少人数でのディスカッションを行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿や、学期中の他大学との合同ゼミなども行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビューなどを可能な範囲で行う予定です。</p> <p>課題レポートには、取り上げるテーマが「なぜ」気になったのか、応募者のプライバシーを過度に犠牲にしない程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入して下さい（題目②）。また、氏名・学籍番号、連絡先のメールアドレスを必ず記載してください。</p>
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示する。
参考文献	<p>伊藤・出雲・手塚（2016）『はじめての行政学』有斐閣      磯崎・金井・伊藤（2014）『ホーンブック地方自治（第3版）』北樹出版      曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書      辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など</p>
備考	<p>上記の参考文献は、基礎的な知識となる行政・地方自治の現状を知るための参考になる文献です。また、行政・地方自治に関する基礎的な知識を習得するため、行政学A・B及び地方自治論A・Bを並行して履修することが望ましいです。</p> <p>面接は指定の日にオンラインで行いますが、時間については、応募者とメールにてあらかじめ調整する予定です。そのため、提出するレポートに連絡先となるメールアドレスを必ず記載し、こちらから送付するメールを必ず確認するようにしてください。また、面接時に最近どのような本を読んだか聞くことがあります。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2014年）、薬師寺（2014年）、佐藤・片山（2018年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。</p>
教科書	<p>小熊英二（編）『平成史【増補新版】』河出ブックス，2014年。  薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。  佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。  など</p>
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	大江 毅
演習テーマ	民事訴訟法演習
演習内容	<p>この演習は、民事訴訟法に関する理解を深めることを最終的な目標とします。</p> <p>ゼミは受講生が創りあげるものだと、担当教員は考えています。具体的な授業スケジュール・使用教材等については、受講生と相談して決めます。なお、2019年度は、ゼミ生の希望により、民事模擬裁判を実施しました（民事模擬裁判の事例も受講生と協議して決めました）。しかし、演習参加人数や新型コロナウイルスの流行状況によっては、必ずしも希望通りにはならないこと、お含み置きください。</p> <p>今次の募集では、民事訴訟法に関心があり、積極的にゼミを創りあげようとする意欲のある、現2・3年生を募集します。</p> <p>ゼミ生の選考は、提出されたレポートを資料として行います。レポートには、ゼミ生の意向を可能な限りゼミ運営に反映させるため、少なくとも、ゼミ志望理由、ゼミで取り組んでみたいテーマないし課題、ゼミへの要望事項について記述し（箇条書きでよい）、K-Smapy II のアンケート画面から応募してください。</p>
教科書	追って指示します。
参考文献	追って指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	桶田 和子
演習テーマ	民法に関する重要判例の分析・検討
演習内容	<p>皆さんは、民法についてはすでに講義を受けていると思いますが、実際に紛争に直面した際、解決方法を導き出すのはなかなか難しいのではないのでしょうか。そこで、本演習では、民法に関する重要な判例を検討することにより、民法の基礎知識を再確認し、社会生活において紛争に直面した際、問題点を把握し法的解決を図ることのできる素養を養うことを目的としています。</p> <p>具体的には、ゼミナール形式で、報告者が選択した判例について調べて報告し、その報告に基づいて全員で検討を行います。はじめは、直感的に「いい、悪い」「妥当、妥当でない」でよいですが、次第に法律的な議論をしていければと思っています。そのためには、報告者以外の者もその判例について予習し、発言してもらいたいと思います。内容としては、民法（財産法）の重要な判例を取り上げていく予定ですが、詳しくは、第1回授業時に参加者と相談して決めようと思います。</p> <p>評価については、学年末に各自選んだテーマに基づいて小論文を提出し、出席・報告・発言・小論文などを総合的に勘案して評価します。</p> <p>2年間ゼミに参加することを条件とし、あらゆる面で積極的な参加をする意欲のある学生をもとめています。</p>
教科書	第1回授業時に指示します
参考文献	適宜授業で紹介します。
備考	原則として、欠席・遅刻は認めませんので、必ず出席してください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本の政治と思想を考える
演習内容	<p>気候変動に伴う数々の異常気象、かつてないコロナ禍とそれに伴う社会的分断の加速等、我々を取り巻く環境は劇的に変化している。その中で、我々は何を目指すのか。日本を取り巻く様々な問題について、新書を中心に購読し、議論を深めていきたい。</p> <p>前期は新書購読を中心とし、報告者による報告を基に議論をする。</p> <p>後期は、それぞれが課題を設定し、調査。研究を行い最終的にゼミ論文として作成することを目指す。</p>
教科書	特に指定なし
参考文献	
備考	例年は、夏季にゼミ合宿を実施している。実施が可能になった場合には行う可能性がある ので、課外活動にも関心のある学生の応募を望む。

[【目次に戻る】](#)

教員名	門広 乃里子
演習テーマ	ゼミ生で家族法改正案を作ろう！
演習内容	<p>この演習では、家族法（主に民法親族編・相続編）の改正案をゼミ生たちで作っています。家族法は、戦後、日本国憲法のもと「男女の本質的平等」及び「個人の尊厳」を基本理念として大幅に改正され、今日に至っていますが、制定当時と現在とでは人々の家族観も、家族の在り方も大きく変化し、また多様化しています。そのような中、一方では基本理念の浸透に疑問が呈される状況が生じており、他方では、家族法が現実の家族がかかえる問題に十分に対応できていない状況があります。そこで、このゼミでは、現行家族法の問題点について、基本的知識をもとに、裁判例、統計資料、新聞記事、アンケート等を通して明らかにし、必要に応じて改正案を策定します。なお、昨今では、家族法の見直しも活発化していますので、その動向もふまえた議論をします。</p> <p>ゼミ生は、自分たちの興味のあるテーマにつき、グループ毎に問題点と改正点をまとめ、発表し、多数決により承認されれば、これをゼミ案として発表し、外部の先生に論評していただきます。ゼミ運営はゼミ生によって自主的に行われます。例年、ゼミ長と副ゼミ長2名は選挙によって選ばれます。関心・意欲のある学生諸君、大歓迎です。</p> <p>年度内の公開授業日は、12月14日（月・4限）、12月21日（月・4限）、1月8日（金・4限。月曜授業振替）です。見学を希望する方は、下記のメールまでご連絡ください。オンライン授業のURLをお知らせします。その他、ゼミの内容等につきご質問があれば、同メールにお問い合わせください。</p> <p>問い合わせ先：kazokuhou.zemi@gmail.com</p>
教科書	後日指定
参考文献	後日指定
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	川合 敏樹
演習テーマ	行政法と環境法の基本的・発展的問題を学ぶ
演習内容	<p>行政法と環境法（主に国内環境法）の制度・理論・実務などを学んだり、原告側・被告側に分かれて裁判例を検討したりします。前期では、ゼミ形式での学習に慣れるとともに、行政法や環境法の基本を理解することを目標とします。後期では、ゼミ生の希望のもといくつかのテーマを取り上げ、ゼミ生のより主体的な参加に基づいて、より各論的・専門的な考察を進めていく予定です。今年度後期は、土地や空間の管理と利用にかかわる都市計画法・建築基準法・土地収用法についての行政訴訟、まちづくりのあり方が問題となった行政訴訟、水域の管理と利用や動物の原告適格などの自然環境保護についての行政訴訟を検討しています。希望者は個人でのリサーチペーパー（ゼミ論文）の執筆も可能です。</p> <p>懇親目的の企画は、ゼミ生による発案・運営のもと行なっています。ゼミで学び、ゼミを創っていくのは、他ならぬゼミ生自身です。ただ教室に来て座っているだけではなく、授業内外に関心を持った問題などに積極的に取り組み、ゼミでの学習と懇親目的の行事の双方について主体的に参加・運営できる方の応募を待っています。「ゼミに入らなければ、こんないろいろな人たちと議論や談笑をして『仲良く』なる機会なんてなかった！」と言えるゼミにしてほしいと考えます。</p> <p>選考にあたって面接を実施する都合上、提出するレポートには、川合と連絡のとれるメールアドレスの記載を忘れずをお願いします。</p>
教科書	教科書類は特定せず、適宜教材を配布・紹介します。
参考文献	開講後に指示・紹介します。
備考	<p>面接の正確な実施時刻は、メールにて相談のうえ決めることとします。授業の都合上、上記時間帯での面接が不可能な方は、相談のうえ他の曜時に面接を行いません。</p> <p>ゼミでは、原則として遅刻・欠席を不可とします。遅刻・欠席せざるを得ない場合は、理由を付して事前に連絡すること。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	川村 尚子
演習テーマ	民法判例演習
演習内容	<p>この演習では、民法のうち主として財産法に関する基本問題を取り上げ、具体的な事例を検討対象としながら、民法の基本的な制度、その趣旨、機能について学習していきます。基本的な知識を習得することはもちろんですが、なにが問題となっているのかを発見し、資料等を調査・収集し検討をおこなったうえで、その結果を説明して議論する力を養うことを目標とします。</p> <p>具体的には、最高裁の重要判例について担当班にレジュメを用いて報告してもらい、それに基づいて全体で討論をします。担当したがって、担当班以外の受講生にも予習をして積極的に発言することが求められます。どの判例をとりあげるかについては、最初の授業のときにみなさんの意見も聞きたいと思います。学年末に各自が選択したテーマについてレポートを提出します。</p> <p>評価については、レポート、出席、報告、討論・質疑などを総合的に評価します。</p> <p>昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため、コンパや合宿はできませんでしたが、例年受講生の希望に応じて、受講生に企画してもらい、実施しています。</p>
教科書	授業時に適宜指示します。
参考文献	授業時に適宜指示します。
備考	<p>原則として、欠席は認めません。</p> <p>やむを得ない事情がある場合にのみ欠席を認めますが、その際には、必ず事前に川村まで直接連絡するようお願いしています。</p> <p>また当然ですが、担当班には、報告の準備のために、班のメンバーと数回話し合ったり、レジュメを作成する機会を授業時間外でとってもらうことになります。</p> <p>面接は、Zoomで行います。詳細については、応募後にメールで連絡します。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	国際関係のなかの日米戦争
演習内容	<p>来年度の前期は、日本の開戦過程を、アメリカやイギリスの動向を踏まえながら、考えていきたい。戦争には、必ず相手が存在し、決して日本側の一方的な意思決定のみによって起こるわけではない。日本はなぜ敗戦が必至の戦争に突入していったのだろうか、その問いを、国内の政治的要因のみならず、国内の経済的要因、さらにはアメリカやイギリスなど国際的要因を加味することでより立体的に考察する。具体的には、まず国内の経済ファクターについて検討した上で、アメリカの動きを考える。一般的に、日米戦争は日本の暴走によって勃発したと見なされることが多い。だが逆に、アメリカ側が日本を戦争に追い込んでいったのではないかという見方も根強く存在する。つぎに、イギリスはどのような対応を、日本の開戦過程においてとったのだろうか。この問題を、イギリスのインテリジェンスつまり国家による情報収集とその分析を中心に考え、日本との比較を行いたい。その後、英米両国と対峙した、日本の陸軍が明治以来どのように発展し変貌をとげてきたのかを見ていきたい。</p> <p>前期は、報告者を1人決め、その報告を聞いた上で、自由に議論を行う。ゼミ生は、必ず1回は報告する。後期は、小論文を執筆する。自ら選んだテーマについて、その構想を報告し、全員で議論しながら、ゼミ論（12000字程度）を完成させる。報告と小論文の完成は、単位取得の必須の要件である。</p>
教科書	<p>牧野邦昭：経済学者たちの日米開戦：秋丸機関「幻の報告書」の謎を解く（新潮選書）  ジェフリー レコード：アメリカはいかにして日本を追い詰めたか：「米国陸軍戦略研究所レポート」から読み解く日米開戦（草思社文庫）  小谷 賢：日英インテリジェンス戦史：チャーチルと太平洋戦争（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）  小林 道彦：近代日本と軍部 1868-1945（講談社現代新書）  伊藤 桂一：兵隊たちの陸軍史（新潮選書）</p>
参考文献	その都度、指示する。
備考	<p>演習は、毎回出席が基本である。真面目で熱意のある学生を希望する。</p> <p>面接の時間が都合悪い場合、メールにて相談してください（kazutos@kokugakuin.ac.jp）</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐古田 真紀子
演習テーマ	民事手続法の判例を学ぶ
演習内容	<p>毎回、民事手続法の判例を取り上げて、その論点を深く掘り下げていきます。民事訴訟法上の論点には、例えば「お寺の住職が解雇されても裁判上の救済は受けられないのか?」「盗んだ日記を証拠として法廷に提出することは可能?」「訴状が誤って被告に届かないまま判決が下されても、被告は判決に服さなければいけないか?」等といったものがあります。ゼミではこうした問題につき、報告担当チームが報告を行った後、ゼミ生全員で質問や意見を出してざっくばらんに話し合いながら、手続法的な考え方を修得していきます。</p> <p>毎年10月に、北は北海道、南は沖縄まで全国の大学から約18ゼミ300余名の民訴ゼミ生が集う民事訴訟法合同ゼミナールが開催され、この合同ゼミへの参加が当ゼミのメインイベントとなりつつあります。4年生のサポートのもと、3年生は短期間でめきめきと実力をつけ、毎年、佐古田ゼミは他大学のゼミと、楽しく充実した討論を行っています。前日の開会式では各ゼミのゼミ長によるユーモアたっぷりのゼミ紹介があり、また、討論終了後の懇親会では他大学の学生や教員と交流を深めて盛り上がります（2020年度はオンラインで実施）。すっかりその魅力にとりつかれたゼミ生達は、合同ゼミを目標に、年間を通して主体的に計画を立て、お互いに協力し合ってゼミ活動を行っています。</p>
教科書	
参考文献	<p>伊藤眞 『民事訴訟法（第6版）』（有斐閣）</p> <p>高橋宏志 『重点講義民事訴訟法上・下（第2版補訂版）』（有斐閣）</p> <p>高橋宏志他編 『民事訴訟法判例百選（第5版）』（有斐閣）</p>
備考	民事訴訟法 IAB、民法総則、債権各論、債権総論、物権の講義を履修済みであるか、同時に履修することが必要です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	捧 剛
演習テーマ	<p>ちょっと専門的な英文を読みたい。 ついでに、それをもとに意見を述べてみたい。</p>
演習内容	<p>この演習は、たとえ現在はほとんど英文が読めなくても、種々の目的のために（もちろん、単なる好奇心でも OK です）、英語で書かれたちょっと専門的な文章を読みたい、そして、願わくは、現在よりは、そうした英文をよりよく読めるようになりたいという人向けのものとなっています。</p> <p>そのために、毎回、事前に配布された英文（おそらく、その多くは新聞記事になると思います）の日本語訳を發表してもらいます（英文の長さや難易度は、参加者のスキルにあわせて調整するつもりです）。そして、その内容について各人が思ったこと、感じたことを日本語で述べてもらおうと思っています。</p> <p>面接（5～10分程度）においては、主として、なぜ、この演習を志望するのかをお聞きすることになりますが、その際に、自分の「やる気」を示す材料として、以下の URL のいずれかにアクセスして、そこにある英文記事のどれか 1 つに目を通し（詳細に読む必要はありません。また、わからないところは飛ばしてしまってもかまいません）、その記事が扱っている問題について自分ほどのように考えるかを日本語で書いたものを持参してください（形式、字数はご自由に。ただし、どの記事を読んだのかがわかるように、記事の英文タイトルを必ず記載してください）。なお、現在この演習を履修している3年生については、選考を免除します。</p> <p>(1) <a href="https://www.theguardian.com/law">https://www.theguardian.com/law</a>  (2) <a href="https://www.independent.co.uk/voices/">https://www.independent.co.uk/voices/</a>  (3) <a href="https://www.bbc.co.uk/news/uk">https://www.bbc.co.uk/news/uk</a></p>
教科書	なし
参考文献	なし（それほど難しくない[と思われる]）英文資料（主として、新聞記事）を、毎回配布します
備考	なし

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 俊輔
演習テーマ	主権国家体系とその変容を考える
演習内容	<p>演習の前期には、国際政治における主権国家体系に生じてきた変化について、理論的な側面からアプローチする。国際政治における主権国家体系と、あるいはその変化の捉え方について、これまでリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなど多様な理論潮流のなかで考察と検討がなされてきたことは論を待たないが、今回の演習では特に英国学派という理論について焦点を当て、検討を行っていきたい。</p> <p>英国学派は「国際社会」という概念を用いて国際政治を捉えてきた理論潮流であり、その国際社会の拡大という見方はウェストファリア条約以来の国際関係の変化を歴史のなかで捉えなおすことを可能としている。また、そのような英国学派の研究が進展する中で、ヨーロッパからの主権国家体系の拡大という視点を超えて、それ以前の、あるいはその外部の国家体系へとその視角を広げる試みもなされてきた。そのため、やや理論的な側面が強くなるが、国際政治の原理とその変化を捉えようとする重要な潮流のひとつとして、本演習の前期では英国学派について深く学んでいきたい。</p> <p>その上で、後期にはゼミ論文を書くことをひとつの目標とするが、それと並行して演習の中でさらにEUに関する文献を輪読していくこととしたい。近年度重なる危機に見舞われているEUであるが、やはり域内では地域統合を大きく深化させる中で主権国家体系を変化させてきた側面が指摘できる。そのEUの歴史と制度、そして政策のなかで表れている課題とはどのようなものかを検討していくことにより、国際的な統合がもたらす新たな問題とは何かについて考えていくこととする。</p> <p>これらの文献の輪読を進めながら、各人には演習のなかでゼミ論文へ向けた研究と、研究に基づくプレゼンテーションを行ってもらおうこととします。</p>
教科書	<p>バリー・ブザン『英国学派入門—国際社会論へのアプローチ』日本経済評論社、2017年 池本大輔他『EU政治論』有斐閣、2020年</p>
参考文献	その他の論文や関連書籍について開講時にご案内します。
備考	※上記教科書は予定であり、追加・変更することがあります。

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 彰一
演習テーマ	生活トラブルと権利擁護をめぐる法と手続
演習内容	<p>日本社会の中で、高齢者・障害者に対する社会的支援は、どんどん重大な課題になってきています。そのキーワードは、権利擁護（Advocacy）です。これらの人々の日常生活は、消費者紛争はもとより、虐待、事故対応、施設契約トラブル、相続・離婚などさまざまな紛争に溢れています。対応としては、訴訟や成年後見制度の利用といった司法制度の利用はもちろん、交渉、調整、など司法以外のさまざまな手段が動員されていきます。福祉や介護、医療の関係者は、権利擁護というタイトルでこうした問題を扱いますが、法律学からこれらのトラブルをみれば、憲法や民法、民事訴訟法に関わる、ごく普通の法律問題です。</p> <p>成年後見制度や紛争処理の仕組みを学ぶことがメインになりますが、本ゼミでは、理解を深めるためにゼミ論の作成と主要文献の輪読をメインにおきます。</p> <p>対象となるテーマが、困難な生活の中で生起するものですので、法哲学やケア論などの話題にも関わってくることもあります。</p>
教科書	特に指定しません
参考文献	特に指定しません。
備考	なお、選考はレポート方式を採用するが、私を書いた文章を参考にすること。ただし現在のゼミ生はすでに読んでいるので、レポートを提出する必要はない。

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 秀勝
演習テーマ	最高裁判例の検討
演習内容	<p>1. 演習の目的</p> <p>・この演習の目的は、最高裁判例の検討を通じて民法の理解を深めることにあります。皆さんはこれまで、講義等を通じて民法の基本的な知識を身につけてきたと思いますが、それらの知識は、具体的な紛争を解決することができてはじめて「生きた知識」になると言えます。そこでこの演習では、近時の最高裁判例とそれに関する学説を検討すること、他の人とディスカッションすること等を通じて「生きた知識」を身に付けることを目指します。</p> <p>2. 演習の内容・進め方</p> <p>・2021年度は、総則・契約に関する最高裁判例を中心に上げる予定です（なお、2022年度には、債権総論、債権各論（不法行為、不当利得など）に関する判例を取り上げる予定です）。ただし、状況に応じて内容を変更することがあります。</p> <p>・進め方に関しては開講時に説明します。状況に応じて変更することもありますが、いずれにしてもグループ単位で作業やディスカッションを行ってもらう予定です。</p>
教科書	開講時に説明します。
参考文献	開講時に説明します。
備考	<p>1. 次の場合には、演習からの除籍等の対処をします。</p> <p>①無断で欠席した場合、②欠席につき連絡をしたが、その理由が欠席を正当化するものとは言えない場合、③正当な事由による欠席を6回以上した場合、④遅刻・早退をした場合（公共交通機関の遅延を除く）</p> <p>2. 面接に関して</p> <p>（1）面接はオンラインで実施します。連絡先を知る必要がありますので、課題提出の際、アンケート画面での回答に際してメールアドレスを正確に記載してください。</p> <p>（2）面接では、レポートの内容のほか、民法に関する基本的な事項（※）についても質問する予定です。</p> <p>（※）次のうち1つをお聞きます：①契約自由の原則（特に契約内容の自由）と制限、②過失責任と無過失責任、③物権と債権の違い。いずれも具体例を使って説明できるように準備しておいてください。</p> <p>3. その他</p> <p>・演習が上述した内容であるため、総則および契約法に関する基礎知識があることが前提となります。なお、2022年度は上記「演習内容」で示したような予定であるため、現2年生のうち本演習を2年間履修する予定の方は、もし今年度「債権総論」、「債権各論B」を履修していないときは、2021年度にこれらの科目を履修するようにしてください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	鈴木 達次
演習テーマ	会社法判例研究
演習内容	<p><b>【内容】</b>  会社法の基礎判例を取り上げて研究を行います。  皆さんの多くは、現在会社法の講義を受けているか、あるいは過去に受けたことと思います。しかし、民法や刑法と異なり、会社法は抽象度が高く、講義だけでは、それがどのように適用されるか、イメージすることは難しかったでしょう。そのためには、具体的な事案（判例）に即して適用関係を学ぶ必要があります。このゼミが会社法の基礎判例を取り上げるのはそのような理由からです。  会社法は会社組織のあり方や取引相手との関係にまつわる法律問題を解決するルールです。大学時代にしっかり学んでおきましょう。</p> <p><b>【運営】</b>  司会者の進行にしたがって報告者が基調報告を行い、それに基づいて受講生全員が討論します。報告者はレジュメを用意し、それ以外の方もちゃんと予習をしてくる必要があります。</p> <p>最初のうちは難解に思えるでしょうが、毎週予習してゼミに臨むことにより、少しずつ問題点が分かってきます。議論も活発にできるようになり、徐々に会社法が面白く感じられるようになるでしょう。やがては「中毒」といいほどゼミにのめりこむことになります。</p> <p><b>【成績評価】</b>  司会、報告および討論の内容により総合的に評価します。なお、正当な理由なく遅刻・欠席した場合には単位は認定されません。</p>
教科書	指定しません。ただし、六法は毎回持参してください。
参考文献	開講時に紹介します。
備考	①会社法の基礎、株式会社法ⅠA、株式会社法ⅠBおよび株式会社法Ⅱの講義を履修していない方は、演習と併行して履修してください。 ②レポートの自己紹介文には、プロフィール、長所（短所）、大学入学後に勉強してきたことといった本来の自己紹介のみならず、入ゼミ後にやりたいこと、ゼミに対する熱意といった自己アピールにかかわることについても記述してください。募集人数は必ずしも多くはなく、このアピールによって合否が決まります。

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>関 哲夫</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>刑法の面白さを味わうために</p>
<p>演習内容</p>	<p>刑法の基礎知識を活かして、刑法総論・刑法各論の重要項目を考察し、その面白さが感じられるくらいまで考え抜こう。</p> <p>◇演習Ⅰ＜前期＞</p> <p>○ゼミ論報告会 4年卒業時までゼミ論文を書く ⇒「学生時代の記念作品」として執筆するゼミ論文の内容を報告する</p> <p>○新聞報告会 新聞で報道された刑事事件（犯罪）を素材にして報告する ⇒生の刑事事件を素材に、犯罪の意義・要件・法効果を考えてみる</p> <p>◇演習Ⅱ＜後期＞</p> <p>○専門報告会 学説・判例において議論されている刑法総論・刑法各論の問題項目を掘り下げて考察する ⇒特定の問題を深く考えてみることによって、その問題の複雑さ、考える難しさを実感し、自分の考えを固める</p> <p>○ゼミ論報告会(2) 完成に向けて、自分のゼミ論文の内容、特に私見の内容を報告する</p>
<p>教科書</p>	<p>○関 哲夫『講義 刑法総論（第2版）』（成文堂・2018年） ○関 哲夫『講義 刑法各論』（成文堂・2017年）</p>
<p>参考文献</p>	<p>以下は配布の予定</p> <p>○佐伯仁志＝橋爪 隆編『刑法判例百選Ⅰ総論』（第8版）（有斐閣・2020年） ○佐伯仁志＝橋爪 隆編『刑法判例百選Ⅱ各論』（第8版）（有斐閣・2020年）</p>
<p>備考</p>	

[【目次に戻る】](#)

教員名	高内 寿夫
演習テーマ	少年法を自由に議論する ープレゼンテーション・ディスカッション・ディベートによってー
演習内容	<p>本ゼミナールは、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートという3つの形式によって、少年法を多角的に検討していきます。</p> <p>本ゼミナールの目的は、少年法に関するテーマで、ゼミ生に、プレゼンテーションやディスカッションの能力を身に付けてもらうことです。</p> <p>少年法は、講義自体が3年次に配当されていることから、前期は、教員がテーマを設定した上で、ゼミ生には、ディスカッション、ディベートに習熟してもらおうと思います。前期に取り上げるテーマは、非行少年には刑罰を科すべきか保護処分を課すべきか、少年法の適用年齢を18歳に引き下げるべきか、非行少年は実名報道すべきかなどです。</p> <p>後期は、ゼミ生が取り上げたいテーマを自ら設定して、まず、ゼミ生に、パワーポイントを用いてプレゼンテーションをしてもらいます。その後、ゼミ生が提起した問題について、ディスカッション、ディベートの形式を用いて、自由に議論をしていきます。</p> <p>なお、夏休みに、少年院、少年鑑別所、児童自立支援施設、児童相談所、少年刑務所などの施設見学をメインとした合宿を実施する予定です。</p>
教科書	澤登俊雄『少年法入門 [第6版]』（有斐閣、2015年）
参考文献	テーマが決まった段階で紹介します。
備考	<p>[レポートについて]</p> <p>参加希望者は、「少年法または少年問題で関心のあるテーマについて」という題で、300字～500字のレポートをまとめ（A4版横書き。用紙は何でもよい）、1月22日（金）午前12時までに、takauchi@kokugakuin.ac.jpに、電子メールで送付してください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	高橋 信行
演習テーマ	行政法の最新判例を学ぶ
演習内容	<p>本ゼミでは、行政法の最新判例について学習する。法学部の講義においては、一つの判例を丁寧に分析する余裕はないが、本来、判例の分析は法学部生として必須の課程であるので、このゼミを契機として、判例分析の能力を習得するとともに、行政法の分野にどのような変化が生じているか、という点を学んでほしい。ゼミの進め方としては、前期においては、3～4の判例を取り上げ、参加者全員で判例の読み方・関連文献の調べ方・他の判例との比較・先例拘束性の法理の意義・行政法の一般法理論等について学ぶ。後期においては、参加者が各自報告を行い、その報告を基に全員で討議・検討を行う。新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、授業の一環として夏休み（8月下旬～9月上旬）に1泊2日のゼミ合宿を開催するので、必ず参加してください（正当な理由のない欠席は認めない）。ゼミの選考はレポートと面接に基づいて行う。今年度のゼミはZoomを利用した遠隔形式で実施しているので、見学を希望する者は高橋までメールにて連絡してください（月曜日3限の時間帯に実施）。また、応募に際しては、以下に掲げた課題について1000字程度のレポートを執筆し、メールにて送ってください。</p> <p>なお、指定された面接日時（1月19日12時～14時）に参加できない者は、メールにて高橋まで連絡してください。</p> <p>【課題】「最近の行政法関連のニュースで興味をもったもの」について  *新聞やニュースを調べた上で、行政法関係のニュースで興味をもったものを紹介してください。そして、なぜそれに興味を持ったか？関係する法的争点は何か？自分だったらどのような解決を試みるか？といった点について意見を述べてください。（1000字）  また、自分の自己紹介（特技や将来の夢、ゼミに向けての意気込み等）も付記してください。（200字）</p>
教科書	
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	高山 奈美枝
演習テーマ	民法演習
演習内容	<p>この民法演習では民法の基本を習得することを目的とします。民法の基礎についてはある程度すでに学習されていると思いますが、より根本的に考察できるよう、その方法論から学んでいきます。すなわち条文を中心として民法の規定する諸制度、および判例・学説を整理し、より明晰な形で問題を提起・検討を行い、結論を導くことを試みます。またさらなる調査・研究を行っていきけるような力をつけるため、資料収集や発表の方法についても学んでいきます。民法の財産法ならびに身分法のすべてを対象の中心としながら、それぞれの関心に応じた課題を見つけていただいで結構です。</p> <p>民法は〈私〉の生きるためのルール集合です。それは大変豊かな内容と大きな歴史を有しています。そのようなことも学ぶ機会にしていきたいと思ひます。</p>
教科書	適宜指示します。
参考文献	適宜指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	羅 芝賢
演習テーマ	近代国家と市民社会
演習内容	<p>普段の生活の中で、国家と接する機会は、グーグルやアマゾンと接する機会と比べると、それほど多くないかもしれません。しかも、それらの企業は、あらゆる領域を横断するプラットフォームとして、国家よりも多くの個人情報を集めています。また、それらは多国籍企業という形態をとることで、税金の安い国へと逃れることもできます。電子マネーを用いたキャッシュレス化の進展によって、国家が発行する貨幣と接する機会もだんだんと少なくなっていくでしょう。しかし、このような世界的な流れを目の前にしても、国家の中に生きているという感覚は、消えていくところか、ますます強まっていくようにも感じます。例えば、オリンピックで日本の選手が金メダルを獲得したとき、喜びを感じた人も少なくないでしょう。今般の新型コロナウイルス感染症への対応では、何よりも国家の果たす役割に注目が集まりました。それでは、このような、相反するように見える二つの傾向をどのように説明すれば良いのでしょうか。</p> <p>この問いに対する答えを引き出すためには、国家と市民社会が互いに深く浸透し始めたところまで歴史を遡り、検討を行う必要があります。この演習では、そのような検討の手がかりを提供する文献を取り上げ、報告と討論を行います（輪読形式）。前期は、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、研究デザインの方法を学び、研究報告会を行います。</p>
教科書	<p>リチャード・J・エヴァンズ『第三帝国の到来』（白水社、2018年） ※教科書は毎年変わります。</p>
参考文献	適宜紹介します。
備考	<p>やや難解な文献を取り上げるため、毎回の割り当ては20ページ程度と少なめにします。ただ、ページ数が少ないことは、報告準備時間が短くて済むことを意味しません。報告者は、文献に出てくる概念や歴史的な出来事を調べるなど、文献の内容を十分に理解するための努力を行うことが期待されます。難しい文献を一生懸命に読み解きたいと思う方はぜひご参加ください。また、資料収集の仕方学ぶため、国会図書館や公文書館への「遠足」も予定しています。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	中川 孝博
演習テーマ	刑事訴訟法研究会
演習内容	<p>1. 本ゼミは、刑事訴訟法の世界をもっと探求したい人が集まる場です。以下の5条件をみたした人は、ぜひ応募してください。</p> <p>(1) 講義科目だけでは飽き足らず、志を同じくする仲間と刑事訴訟法を自ら研究したいと考えていること * 刑法、刑事政策は直接には扱いません。</p> <p>(2) 「刑事訴訟法1B」をフル参加で履修中であること。</p> <p>(3) 「刑事訴訟法2」のフル参加受講を約束すること * 面接で合格となっても、結局この科目を受講しなかった学生は、ゼミはRとなります。</p> <p>(4) 各自の研究の仕上げとして、各年次にゼミ論文を書くこと * このゼミに所属した人で書けなかった人は未だかつていませんから不安になる必要はありません。</p> <p>(5) 2021年2月16日にプレゼミを開き、ゼミ運営の段取りをつけ、懇親会を行う予定です。必ず参加してください。</p> <p>2. 本ゼミの基本的運営方法は、以下のとおりです。</p> <p>(1) 前期 前期の目標は、研究活動の基本スキルを修得することと、ゼミに慣れることです。2月のプレゼミで3・4年生混合チームを作り、チーム単位で研究、研究発表、討議を繰り返していきます。3年生は、4年生と共に研究活動を見よう見まねで開始し、中川や4年生の手ほどきを受けながら、文献の収集方法、判例の分析方法、学説の分析方法、レジュメの書き方、プレゼンの仕方、議論の仕方、論文の書き方等のスキルをつかみとってください。同時に、「刑事訴訟法2」を受講しながらさまざまな論点に触れ、自分が論文に書きたいテーマを発見してください。</p> <p>(2) 夏休み合宿 夏休みに合宿を行い、ゼミ論文のテーマ報告をします。そして、テーマが似通っている者が集まってチームを再編成します。</p> <p>(3) 後期 後期の目標は、夏休みに決定したテーマに基づき、各自のゼミ論文を執筆・完成させることです。ゼミの時間は、その途中経過報告・意見交換に使います。11月末には論文を完成させ、その後ピア・レビューを行い、完璧なものにすべく修正を繰り返します。</p> <p>主体的に活動する人々が集えば良いゼミになりますし、お客さん意識の人ばかりだとゼミは崩壊します。幸い、過去にゼミが崩壊したケースはありません。普段のゼミ、0Cへの参加、夏季合宿などなど、実に立派に、自分たちのやりたいことを自分たちで企画・運営しています。今回もやる気満々の人々が集い、活発なゼミが継続することを期待しています。</p> <p>ゼミ見学はいつでも可能（事前予約不要）なので、お気軽にお越しください。</p> <p>なお、新カリキュラムのもとで学んできた学生さんを受け入れる二年目の年度となります。カリキュラムの変更に応じゼミでも可否判定基準を変える予定なのですが、そうしますと、もしかしたら合格者が例年よりも増えるかもしれません。もし大幅に増えた場合、上述のような運営はできず、講義科目で行っているようなグループワーク形式を導入しないとやっていけないかもしれません。その場合にはあらためて中川が素案を提示したうえで2月16日のプレゼミにおいてみんなで議論し、運営方法を新たに決定することになりますので、ご承知おきください。</p>
教科書	<p>いしかわまりこ他『リーガル・リサーチ[第5版]』（日本評論社、2016年） * 法文献等の収集方法を網羅した本です。文献収集の際に活用してください。</p>
参考文献	一律には指定しません。参考文献の見つけ方の指導はします。
備考	面接について。当日は16:10にZoomに入ってください。そこで相談し、各自の面接開始時刻を具体的に設定します。

[【目次に戻る】](#)

教員名	中曾根 玲子
演習テーマ	会社法・金融商品取引法を巡る事例を考える
演習内容	<p>社会を騒がせた有名な事件（ニュース）であっても、法的な論点が何であったのかは意外と知られていないことが多い。本演習では、会社法（金融商品取引法を含む）に関連する最新のニュース（たとえば、企業不祥事と内部統制、株主代表訴訟、役員報酬、企業買収、インサイダー取引、不正な株価操作等などの事例）を取り上げ、問題の背景や法的問題点を調べ、実務から法規制の意義を学び、会社法・金融商品取引法を理論的に学習することを目的としている。</p> <p>ゼミでは、グループワークを重視し、報告・各種のレジュメの提出を通じて、素朴な質問から法的な質問まで自ら考え答えられるようにする。広く経済社会の出来事に興味を持ち、ゼミ活動に積極的に取り組む意欲のある学生の参加を期待したい。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会社法に関するテキスト（とくに指定しないので、授業等で使用しているものでよい）</li> <li>●金融商品取引法に関するテキストは、演習内で指示する</li> <li>●六法</li> </ul>
参考文献	その他、必要な参考文献は適宜指示、または演習内で配付する
備考	<p>ゼミの受講を希望する場合には、会社法の基礎的知識が不可欠になるので、すでに「会社法の基礎」を履修している（また履修中）か、ゼミと並行して履修することが必要である。なお、株式会社に関する法制度をさらに深く学修したい場合には、「株式会社法ⅠA」「株式会社法ⅠB」「株式会社法Ⅱ」を積極的に履修してほしい。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	長又 高夫
演習テーマ	前近代の法典・法書を読む
演習内容	<p>昨年に引き続き、御成敗式目を読んでいく。中世社会にうまれた御成敗式目がどのような法典であったのか、歴史的に考察する。前近代社会において御成敗式目が重んじられたその理由を探ってゆく。歴史好きの学生さんに参加してもらいたいと思います。</p> <p>進め方としては、まずは51か条を1か条ずつ解釈して、その内容を正確に理解した上で、律令法や公家法との関係を明らかにする。また、その後に制定された追加法との関係も考えながら、中世法の面白さを知ってもらいたい。</p> <p>1か条ずつ独立しているので、今年から参加することも問題はないと思われる。</p> <p>事前に担当者をきめ、調べてきてきた内容を発表してもらい、質疑応答を行う。また解釈にあたっては、読み下し文と注釈を載せる『中世政治社会思想 上』（岩波日本思想大系）を参考にすると良い。なお鎌倉・室町期に執筆された式目の注釈書も大いに参考となる。</p>
教科書	
参考文献	『中世政治社会思想 上』（岩波日本思想大系）。ただし担当箇所をコピーするだけでも良い。
備考	植木直一郎『御成敗式目研究』（名著刊行会）、長又高夫『御成敗式目編纂の基礎的研究』（汲古書院）、『中世法制史料集』全7冊（岩波書店）ほか

[【目次に戻る】](#)

教員名	姫野 学郎
演習テーマ	判例とその「周辺」
演習内容	<p>授業でも教科書・基本書でも、よく「判例・通説は～である」といいます。「下級審裁判例は～である」という表現に出くわした人もいるでしょう。</p> <p>「判例」を読んで、必要な中身を把握するには、民法その他の実体法と民事訴訟法その他の訴訟法を勉強済みであるだけでは、実は必ずしも十分ではありません。そうすると、民法と民事訴訟の橋渡しになる知識をはじめ、判例のいわば《周辺》の知識が必要になってきます。たとえば昔の最高裁判所の合議では、分厚い『六法』を投げつけあって大喧嘩した、なんてこともありました。たとえば判決書のなかで「戦後に多く見られる男女関係の余りの無軌道」を大まじめに憂えた最高裁判事もいました（踏んだり蹴ったり判決）。</p> <p>いろいろ小難しいことを書きました。この演習は、民法は総則・債権各論までは習ったことがあり、民事訴訟法はまだ勉強したことがない人をいちおうの対象にしています。でも、受講者の方向性・希望等にあわせて柔軟に運営していきます。やる気のある人、好奇心おう盛な人を待っています。</p> <p>ゼミ風景を見たい人は、以下のゼミ生アドレスにメールをください。学籍番号と氏名とともに「ゼミ風景 zoom レコーディング希望」と書いてください。折り返し、URL 等をお送りします。</p> <p>当日都合が付かない等締め切り前の質問その他は ghimeno@live.jp（私）か himenozemi@yahoo.co.jp（ゼミ生）に宛てて送ってください。</p>
教科書	『民法判例百選』
参考文献	内田貴『民法』、大村敦志『新基本民法』
備考	3回以上無断欠席した者には単位を与えない。

[【目次に戻る】](#)

教員名	平地 秀哉
演習テーマ	現代の人権問題
演習内容	<p>このゼミで勉強する内容や方法などは、教員からあらかじめ縛りをつけることは本意ではないので、例年参加者の話し合いによって自由に決めてもらうことにしています。したがって、来年度の内容として紹介できるものは今のところありませんが、参考までに2020年度の例を紹介すれば、前期は信教の自由と政教分離、後期は外国人の人権保障や人権の私人間効力に関する諸判例を素材にしました。</p> <p>2020年度のゼミの進め方は次のとおりでした。まず、報告担当者(2～3人組)と、報告する判例、報告日を決定します。そのうえで、事前に報告予定の判例(判例集など)を全員に配布し、目を通しておいてもらいます。報告担当者には、そのテーマについてレジュメ作成の上、一通りの報告・検討をしてもらいます。その後、全員で報告についての質疑応答をします。</p> <p>なお、本年度は、前期中に週2時限ずつゼミを行って前期中に通年分を終える、前期集中授業となる予定です。また、例年ですと、夏休みに合宿を行い、また数回の飲み会を行っていますが、本年度については、スケジュールや社会的状況をみて、可能であれば開催することにはしたいと思います。</p> <p>成績は、平常点評価です。毎回出席を前提としたうえで、授業時の報告の出来、発言の頻度・内容などを考慮して評価します。したがって、本ゼミが求めるのは、憲法に関する高度な知識や学力よりも、ものを考え、それを積極的に言葉で表現する意欲、そして仲間との協調性ということになります。読み書きが得意であるのに越したことはないですが、元気でよく話す人ほどこのゼミに向いていると言えます。</p>
教科書	特になし（適宜配布します）
参考文献	特になし（適宜配布します）
備考	<p>演習の欠席は原則として認めません。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に申し出るようにしてください。</p> <p>なお、選考面接の日時に都合のつかない者は、その旨を選考レポートに記載してください。教員から連絡の後、別途面接日時を指定します。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	廣瀬 美佳
演習テーマ	私たちを取り巻く社会と医療と法(仮)
演習内容	<p>本演習では、基本的には、初回の授業で履修者と相談の上、その年度のテーマを決めることとなります(2020年度は、一応、担当教員の方で、本人のライフワークであり医事法の授業でも講義しているところをテーマに掲げたところ、これに興味をもった学生が応募・履修することとなりましたが、その後、新型コロナ・ウイルス禍に見舞われ、前期が始まる頃には、新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正をはじめ、感染症対策をめぐる法制度が話題になっていたことから、「感染症対策と法」をテーマに据え一途中で当該テーマのままでよいか、どのようにアプローチしていくかなどにつき、適宜確認を取りながら一進めています)。</p> <p>ですので、2021年度についても、上記のように、医療問題を一応のテーマとしておきますが、面接時に履修(希望)者それぞれがどういった方面に関心を持っているか等につき把握した上で、最終的には、年度初回の授業時に全員が顔を合わせたところで(いわゆるリモートではなく、教室で直に御目にかかれるといいのですが…)、全体テーマ/個別テーマ、半期ないし通年のゼミの進め方などにつき、相談の上、決定する予定です。但し、担当教員の専門性との関係で、医療問題ないしその周辺を扱うこととした方がよりスムーズなゼミ運営につながるでしょうし、例えば憲法や刑法は全くの専門外ですので、いずれにしても、民法や医事法プロパーな法律を中心に勉強することになるものと思われまます。</p>
教科書	授業時等に適宜指示します。
参考文献	授業時等に適宜指示します。
備考	<p>(01) 事前の志望理由等提出について： 必ず、提出締切日である 2020. 01. 19. (火)の 24:00 までに廣瀬のアドレス宛に送付・着信すること。折り返し、面接用の Zoom の招待状をお送りします。</p> <p>(02) 選考日時について： 他の授業との関係等で当該日時に面接を受けられない場合は、予め、その旨申し出ること(面接の終了時刻は応募人数により前後するため明記しない&amp;面接に要する時間は応募者1人につき 15 分程度を目安とします)。</p> <p>(03) 履修者数について： 参加者全員による議論を成立させるため、現 2・3 年生合わせて 20 名程度を上限としたい。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	福岡 英明
演習テーマ	簡単な事例問題を解く
演習内容	<p>「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」という演習書を利用して、毎回、1問解いていく。</p> <p>毎回、複数の担当者（当番の受講生）が事例問題の解答を作成し、受講者全員にそのコピーを配布する。</p> <p>受講者は、配布された解答のコピーを比較検討する。</p> <p>自分だったらこう考えるとか、自分だったらこのように論じるとか、など内容だけでなく、解答の論述構成も議論する。</p> <p>解答に際しては、関係する最高裁判例や主要な学説を踏まえていることが要求される。</p> <p>なお、第1回目は、解答作成にあたっての心得を簡単に教員が説明する。</p> <p>第2回目以降、上記の方式で演習を進める。</p>
教科書	加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人編著「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」北樹出版
参考文献	憲法の授業で利用していた教科書。 その他、摘示指示する。
備考	毎年、少人数なのでかなりの頻度で担当者（毎回、少なくとも2名）になると思います。 ゼミ合宿は予定していません。

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮内 靖彦
演習テーマ	国際法の現代的問題
演習内容	<p>国際法の現代的問題を扱う本で取り上げられている争点を分析していきます。各章の叙述を分担して要約し確認することを皮切りに、関連文献を追跡し読み、国際法の様々な分野について、論点の背景の理解や叙述の妥当性を分析していきます。国際法の制度や先例を踏まえつつ、本質や機能を考えることが重要です。報告の際は、調べてきたことをうまく組み合わせて、相手や聴衆を説得すること、相手の主張に反論し覆すことが必要です。これらの作業を通じて、理屈の立て方や説得の仕方を修得することができます。</p> <p>応募者には、募集期間〆切後、宮内から、応募者の KEAN のアドレスにメールが届きます。そのメールには、面接のための Zoom ミーティング情報・面接時間・方法が記されているとともに、「面接用紙」を入手できるようになっています。「面接用紙」をダウンロード・記入して、宮内のメールアドレスへの返信メールに添付して送ってください（1月18日（月）午前11時〆切（厳守））。面接日は、所定の面接時間に KEAN のアカウントを使って、Zoom でアクセスしてください。</p>
教科書	今のところ、森川幸一（他）『国際法で世界がわかる-ニュースを読み解く 32 講』（岩波書店、2016 年）を予定。
参考文献	
備考	宮内との連絡は、KEAN のメールアドレスを通じて行いますので、メーラー、またはブラウザで KEAN のメールサーバーにアクセスして、メールを確認してください。これらを確認しても、来るはずのメールが来ていない場合は、宮内まで問い合わせてください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮下 大志
演習テーマ	「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来」
演習内容	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>日本の政治と民主主義は、かつては「55年体制」のもと、かわりばえのしない、そしてあまりよくないイメージで見られてきました。しかしみなさんの生まれる前、その「55年体制」が崩れ、また日本の置かれた状況の変化もあって、55年体制の自民党長期政権の時代とは違う要素も出てくるようになりました。一応、政権交代も起こるようになりました。</p> <p>しかし、近頃の政治を見ていると「本当に変わったのか?」、あるいは「進歩はしているのか?」と首を傾げてしまう気持ちも湧いてきてしまいます。</p> <p>そこで、来年度のゼミではこの日本の政治・民主主義について、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということを行なう予定です。</p> <p>そしてその際には、欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、 「これまでもっとも興味を持った講義」という題目で、これまで履修した講義のうち、もっとも興味を持った講義について、その内容を紹介しながら、そこから自分が何を考えたかを記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。</p> <p>なお、現ゼミ生は選考を免除します</p>
教科書	開講時に指定します
参考文献	必要に応じて紹介します
備考	<p>面接は、zoom を使ったオンライン面接となります。個別面接ですので、全体としては 1/23（土）の 13 時開始ですが、一人一人の面接開始時間は異なります。zoom 面接の URL と、個人の面接開始時間は、レポート提出したアドレスへの返信で前日までに通知します。通知した開始時間の 2、3 分前にログインし、待機してください。</p> <p>面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは開始時間を配慮してほしい（「4 限にオンライン授業があるのでその前に設定してほしい」など）場合は、レポート提出の際のメールで知らせてください。</p> <p>なお、面接は一人 15 分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、遅くとも 15 時には最後の面接を終えられるかと思えます。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	本久 洋一
演習テーマ	労働判例を読む
演習内容	<p>労働法ゼミでは、毎年度、最新の労働判例を素材として、現在の労働法上の問題について、分析し、討論しています。</p> <p>本年度のゼミ生は、労働基準監督官あるいは社会保険労務士志望ということもあり、かなり意欲的で、ゼミもかなり充実したものとなりました。</p> <p>担当教員としては、普通のゼミをしているつもりなのですが、かなり勉強に特化したゼミとの感想を歴代のゼミ生たちは抱いているようです。</p> <p>労働法・社会保障法（3年次以上配当）の履修予定を応募の条件とします。</p> <p>労働法を学びたいという強い意欲をもつ学生さんをお持ちしております。</p>
教科書	本久洋一・小宮文人編著『労働法の基本』（法律文化社）
参考文献	ゼミ時に適宜指定します
備考	強い学習意欲が必要です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	森川 隆
演習テーマ	株式会社法論点講義
演習内容	<p>【内容】例年と異なり、Zoomを使ったオンデマンド方式で行います。</p> <p>具体的なゼミの中身については現在詰めている最中ですが、少なくとも特定の判例や論点についてゼミ生全員で議論するという方式は採りません。教員が株式会社法の特定のテーマについて講義をし、ゼミ生の皆さんにそれについての簡単なレポートを提出してもらう（併せて皆さんからの質問に答える）という方式を考えています。</p> <p>また、ゼミ生の皆さんとのコミュニケーションは k-smapy II（クラスフォーラムやQ&amp;A）を通じて行うこととなります。ご理解いただきますようお願いします。</p> <p>【その他】</p> <p>「会社法の基礎」を履修していない人は、必ず演習の履修と併行して同講義を履修してください。</p>
教科書	特定の教科書を使用する予定は今のところありません。
参考文献	開講時に紹介します。
備考	<p>募集は現在ゼミ履修中の3年生限定です。就職活動での欠席の取扱などはこれまでの森川ゼミの方針を踏襲しますし、その他の点についても先日ゼミの時間に鈴木から説明したとおりです。それ以外に質問がある場合には、いつでも鈴木に聞いてください。森川先生と連絡を取った上で返答いたします。</p> <p>選考方法に掲げた「面談」ですが、これは今年度最終ゼミの開始時間の少し前にZoomを使って行います。応募者全員一括して面談します。また、誠に申し訳ありませんが、これについても鈴木が代行することになりますのでご了承ください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	岡田 康夫
演習テーマ	判例で学ぶ不動産法
演習内容	<p>不動産は、我々の生活に欠かせない重要な財産です。近年は、空き家対策、負動産化、所有者不明土地問題といった問題が生じており、これらに対応するために法改正などが活発に進められています。民法の物権編も、改正されようとしています。そこで、不動産をめぐる裁判例を題材にして、民法（と、もしかしたら少しだけ行政法）を学びましょう。</p> <p>『不動産法入門』という本の目次から、不動産法がどんな分野なのか眺めてみましょう。「不動産の取引」「不動産の所有」「不動産の利用」という3部構成になっています。物権法を学ぶ、とは限りません。不動産の取引には、売買契約や売主の担保責任、宅建業者の重要事項説明義務などが登場します。不動産の所有には区分所有（マンション）の法律関係や土地の境界をめぐる争いなどが含まれます。そして不動産の利用の中心となるのは、不動産賃貸借、つまり借地や借家の問題です。このように、民法講義が総則・物権といった法典順の学習方法なのとは違った切り口で、民法の様々な事柄を学び直すことができます。ちなみに不動産の所有には、都市における不動産の開発に関する事柄も出てきます。これは行政法にあたります。不動産に関する事柄は、とても幅広いのですが、重要な裁判例を読み、出てくる事柄を少しずつ学んでゆきましょう。</p> <p>なお、このゼミで取り上げる裁判例は、最高裁のものには限られません。地裁や高裁の裁判例も取り上げます。</p> <p>受講人数によって変わりますが、原則として複数のゼミ生で判例発表を行い、その内容をもとにみんなで議論していきます。</p> <p>コロナ感染症流行のため、コンパや合宿などがやりづらい状況にありますが、可能であれば、これらを実施して親睦を深めたいと考えています。さらに、都内の重要不動産の見学も、構想しております。</p>
教科書	特になし
参考文献	秋山靖浩『不動産法入門』（日本評論社、2011年）
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの主役はゼミ生です。不動産（法）に関心を持ち、学びたい意欲のある学生を歓迎します。</li> <li>・出席は必須です。正当な理由のない欠席が続く場合は除籍等の対応をすることがあります。</li> </ul>

[【目次に戻る】](#)

教員名	高橋 真人
演習テーマ	実践できる法律知識の修得
演習内容	<p>不動産登記は、住宅の購入やそれにともなうローンの利用、親の死亡による相続などの際に利用される極めて身近な法制度である。不動産登記というと、民法の文脈では争いを前提として権利の優劣の判定をする気難しい制度として登場する。しかしこの制度は争いを起こさないために作られたものであり、本演習はこれを民法の物権変動論の中ではなく、仕事や生活で不動産登記を必要としたときに、実際に何をしたらいいのかの「スキル」を学ぶ。具体的には、与えられた事例について実体法的にどのような法律関係が生じたかを考え、そのうえで登記の手続を実践的に考えて学習していくものである。</p> <p>宅建業や銀行等、不動産をめぐる権利関係への法律知識を日常的に必要とする仕事を目指す者や、宅地建物取引士や司法書士等の資格取得を目指す者を歓迎する。なお、本演習の履修にあたっては、不動産登記の手続の前提である民法の相続・物権・債権・相続について、履修済であるか履修予定であることが望ましい。</p> <p>&lt;選考方法&gt; レポート提出（現ゼミ生はレポート提出を免除します。） &lt;レポート詳細&gt; 書式：A4横書 PDFファイルで提出 字数：800字～1000字程度 題目：自己紹介及び志望動機 提出方法：メール送付（takahashi0518@hotmail.com） 締切日時：令和3年1月15日（金）23時59分</p>
教科書	なし
参考文献	集中講義「不動産登記法」 齋藤隆夫著 成文堂
備考	